

RELATED PROFESSIONAL ACTIVITY



LECTURE AND MASTERCLASS

VELIMIR VUKIĆEVIĆ  
JOVANA ČAVOROVIĆ

September 2nd, 2022

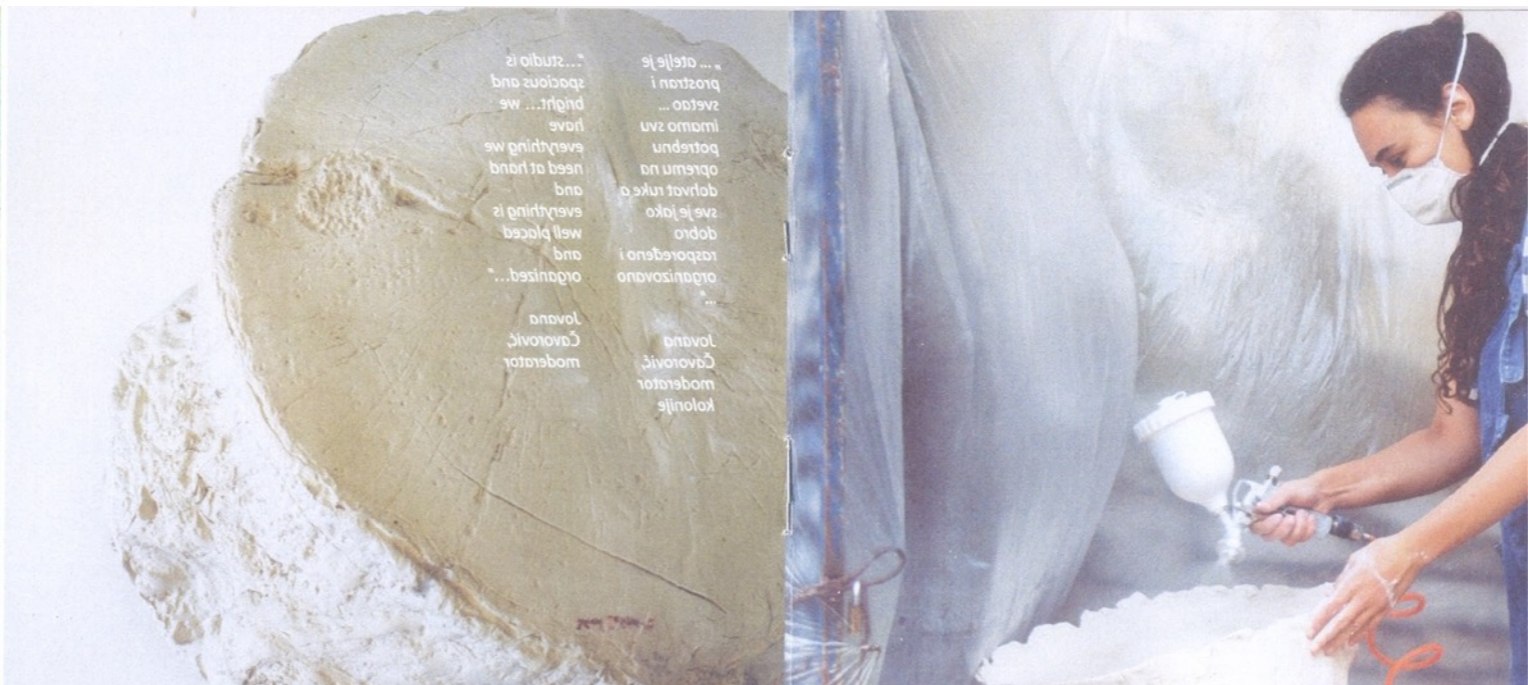
at 11am.

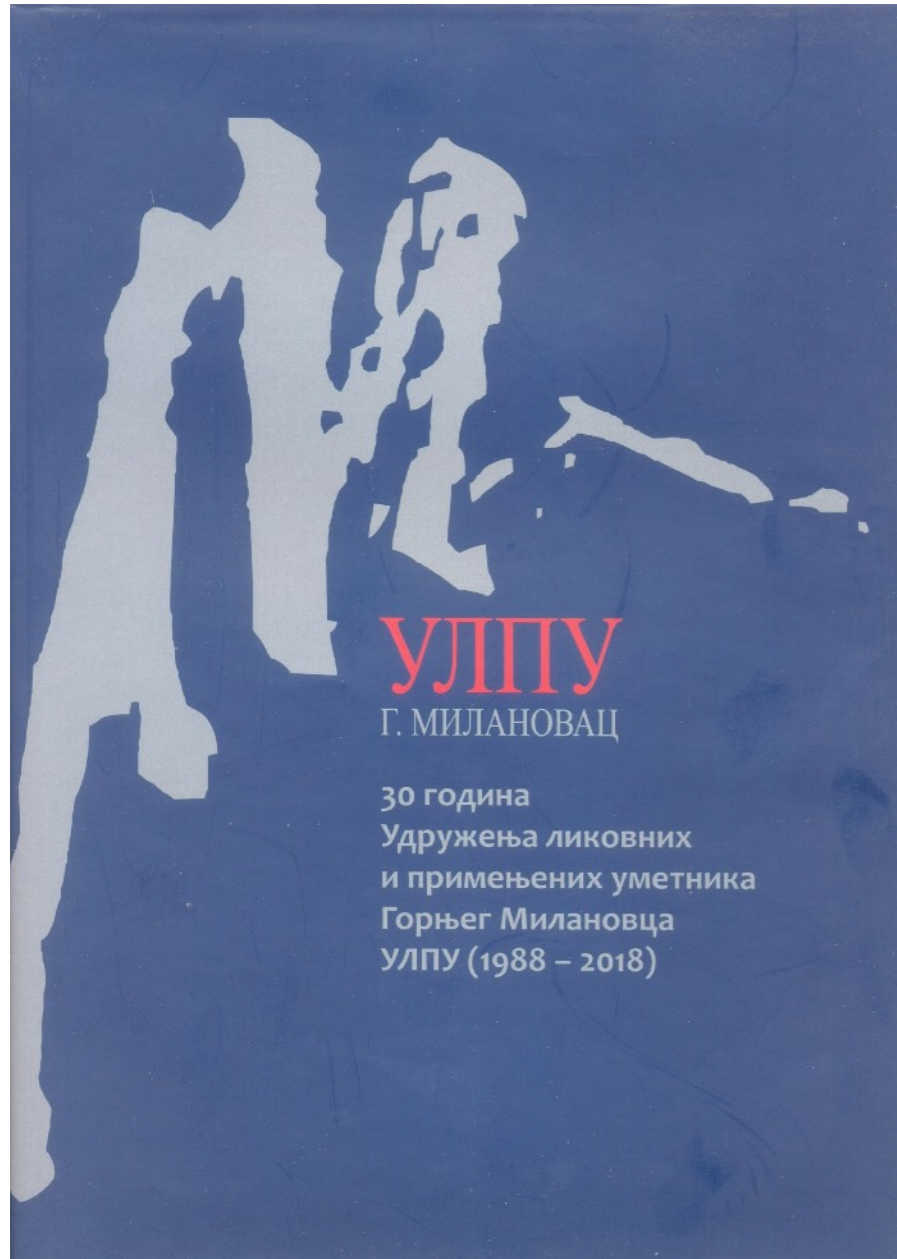
VODNIKOVA DOMAČIJA  
Vodnikova cesta 65, Ljubljana



# KOLONIJA PRIMENJENE KERAMIKE

TERRA PANONICA, MOKRIN 2012





## Јована Чаворовић

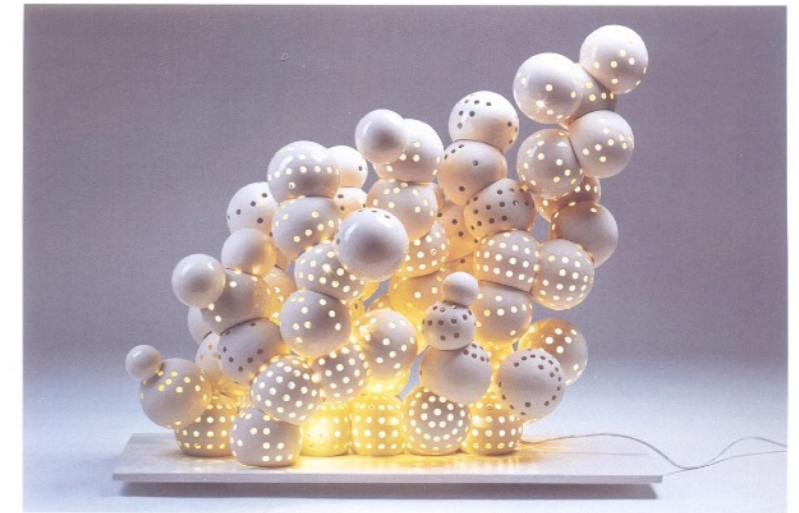


Рођена 1985. године у Горњем Милановцу. Завршила средњу уметничку школу у Нишу на одсеку за текстил 2004. године. Дипломирала на Факултету примењених уметности у Београду 2010. године на одсеку за керамику у класи професора Велимира Вукићевића.

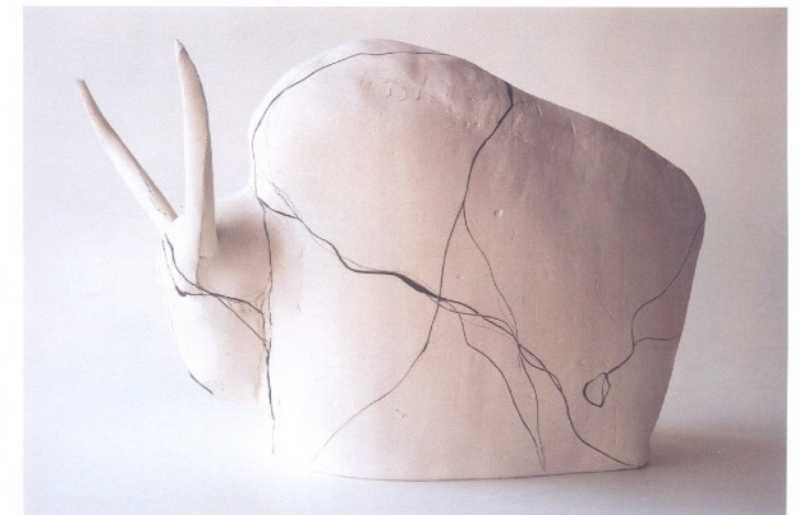
Самостално излагала једном и учествовала на више колективних изложби у земљи и иностранству. Учесница је неколико ликовних колонија и уметничких пројеката. Добитница је Почасног признања на XV *Međunarodni Eksternog keramike* у Пирану (Словенија) 2014. године, главне награде 18. бијенала керамике у Београду 2015. године и *Outstanding Performance Award*, 6. *TOBITEN* у Токију (Јапан) 2019. године. У периоду 2018/2019. учесница је истраживачког програма на *ISHOKEN* институту за дизајн и технологију керамике у граду Таџими (Јапан).

Члан је Удружења ликовних уметника примењених уметности и дизајна Србије (УЛУПУДС), Удружења ликовних и примењених уметника Горњег Милановца (УЛПУ) и Креативног удружења Блатобран.

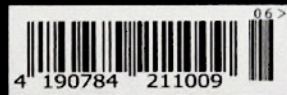
Контакт  
Станимира Раловића 69  
32300 Горњи Милановац  
тел. 065 211 05 11  
e-mail: jovanacavorovic@gmail.com  
www: kera-keza.blogspot.rs



Флажолет, 100 x 100 x 30 cm, порцелан, 2014.



Бизон, 50 x 60 x 50 cm, порцелан, 2010.



## ARTIST JOURNAL

### Jovana Cavorovic (Serbien)

Jovana wurde 1985 in Serbien geboren. Sie erwarb ihren Bachelor- und Masterabschluss in Keramik an der Universität Belgrad, Hochschule für Angewandte Kunst, Fachbereich Keramik, Serbien. Danach studierte sie während des Forschungsprogramms am Ishoken, Tajimi City Pottery Design and Technical Centre in Japan unter der Keramikerin Harumi Nakashima. Für ihre Serie "Pupa" verwendete sie Transferpapiere auf Tonplatten. Manchmal bricht die Künstlerin die Stücke, um sie umzuformen und anschließend Silber aufzutragen. "Ich wollte symbolisch einen Prozess zeigen, der stattfindet, wenn wir einer neuen Umgebung und einer neuen Kultur ausgesetzt sind. Manchmal sind diese Einflüsse zwar von außen unsichtbar, aber wir können sie spüren und es dauert eine Weile, bis sie sichtbar und erkennbar werden."

"Meine neueste Werkserie trägt den Titel "Pupa", es sind kugelförmige Formen aus Porzellanplatten, die mit Transferpapier dekoriert und mit Silber überglasiert sind. Sie symbolisieren die Lebensphase eines Insekts zwischen Larve und erwachsenem Tier, die sich in einem Prozess vollzieht, der als Metamorphose bekannt ist. Während dieses Stadiums mag es so aussehen, als ob nichts passiert, aber im Inneren finden große Veränderungen statt."

Tonplatten, Transferpapiere, Glasur und Silber



links - Flakes, 2018, 50 x 30 x 20 cm

Foto - Vladimir Popovic

unten links - PUPA, 2019, 110 x 105 x 85 cm

Foto - Yoshihiro Tanaka

unten rechts - PUPA, 2019, 112 x 95 x 75 cm

Porzellan, Transferpapier, Glasur, Silber, rB 1230°C  
rB 1050°C, uB 800°C Foto - Yoshihiro Tanaka

(rB reduzierender Brand / uB - oxidierender Brand)



# セルビア人女性 多治見で優秀賞

## 美濃焼 欧風で殻破る

美濃焼産地の岐阜県多治見市で焼き物を学んでいるセルビア人新進陶芸家のヨバナ・チャポロビッチさん(33)が、一線で活躍する陶芸家が出展する公募展「第六回陶芸展」で優秀賞を受賞した。主催する日本陶芸美術協会によると、同展で欧米人が優秀賞を受賞するのは初めて。来日一年での初受賞にチャポロビッチさんは「日本での受賞は自信になる」と喜ぶ。

(渡辺真由子)



①チャポロビッチさんの受賞作品「Pupa」＝日本陶芸美術協会提供 ②作品を制作するチャポロビッチさん＝岐阜県多治見市の市陶磁器意匠研究所で

受賞作は、縦横が五十一・六十センチのほぼ球形。厚さ一センチ弱の薄い殻のような陶板でできており、上部が少し開いている。作品名は英語で「さなぎ」を意味する「Pupa」。日本の陶磁器技術を吸収しながらも、まだ十分には表現できていない醜の中にいる自分をイメージしたという。



審査員の一人で陶芸家伊藤赤水さんは「量産のための技術を芸術に取り入れるなど、陶芸の常識を破った」と評した。チャポロビッチさんが研究生として在籍する多治見市陶磁器意匠研究所の中島晴美所長も「日本人の陶芸家の発想にはない、焼き物の素材へのアプローチが新鮮」と作品の魅力を語る。

チャポロビッチさんは二〇一〇年にセルビア芸術大学の陶芸専攻を卒業。以前、研究所に来たことのあるセルビア人の陶芸家から研究所の存在を知り、昨年四月に来日し、毎日八時間は研究所にこもり、成形や絵付け、焼成などをしている。休日には、愛知県瀬戸市や金沢市などの産地に行き、勉強を重ねる。

チャポロビッチさんによると、母国セルビアを含む欧州と日本では、陶芸を取り巻く環境が大きく異なる。欧州では、日用食器と芸術品としての陶磁器は全く別のジャンル。日本では、著名陶芸家が茶わんや皿といった日用食器を芸術品として制作しているのに驚いたという。そんな日本の陶芸事情に刺激され、日本の伝統的な工業技術を取り入れた斬新な作品に仕上げた。トップレベルの陶芸家が集まる二月の日本陶芸展でも入選を果たした。

研究所は外国人研究生を積極的に受け入れており、現在はセルビアのほかブラジルと香港の二人が所属。四月からは六人の外国人が研究生として学びに来る予定だ。

チャポロビッチさんは「多治見には技術、陶芸家、環境がすべてそろっている」と目を細める。「私はまだまださなぎの状態だけど、多治見で学んだことが将来花開くはず」と焼き物に向き合っている。

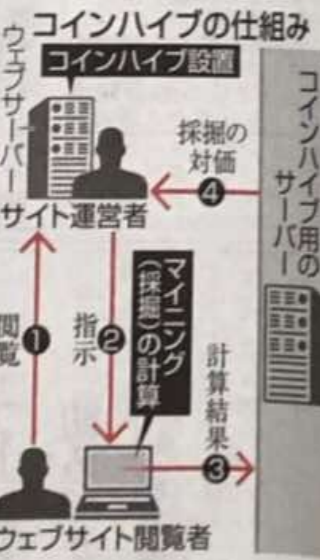
## 他人PCで「採掘」無罪判決

### 仮想通貨 刑事罰「行き過ぎ」

自身が運営するウェブサイトに、閲覧した人のパソコンを仮想通貨の獲得手段として、不正指令

「マイニング(採掘)」に無断利用するプログラムを設置したとして、不正指令

電磁的記録保管の罪に問われたウェブデザイナーの男性(33)に、横浜地裁(本間敏広裁判長)は二十七日、



一月にわたって、他人のパソコンを勝手に採掘し、仮想通貨を稼ぐ行為は違法と判断された。判決は、被告が他人のパソコンを勝手に採掘し、仮想通貨を稼ぐ行為は違法と判断された。判決は、被告が他人のパソコンを勝手に採掘し、仮想通貨を稼ぐ行為は違法と判断された。

女... 米... 日... ゴ... 東... 女... 米... 日... ゴ... 東... 女... 米... 日... ゴ... 東...

新型コロナウイルスの影響で、岐阜県多治見市に1年以上も足止めされていたセルビア人の女性陶芸作家が15日、帰国の途に就く。市内で2年間、やきものを学び、昨春には祖国に戻る予定だったが、航空便は何度もキャンセルに。滞在費も底をつきかけ、苦境に陥った彼女を支えたのは、多治見で出会った友人や知人たちだった。

### やきもの学びに

セルビア中部ポリミラノバツ市出身のヨバナ・チャポロビッチさん(36)は、2018年春、多治見市陶磁器意匠研究所(意匠研)のセラミックストラボに入所した。同国の大学で陶芸を学び、恩師に日本行きを勧められて来日した。ラボ在籍中の2年間に数多くの作品を制作した。



ヨバナ・チャポロビッチさんの作品

## 帰れない14カ月 善意に支えられ

「日本のやきものに対する感性や、道具、材料をうまく使って、彼女なりの表現をしていた」と話す。粘土の性質を生かした大型作品をよく作っていたという。18年に「日本陶芸美術協会陶美展優秀賞」、19年には「有田国際陶磁展」(佐賀県有田町)の美術工芸品・オブジェ部門3位に輝くなど高い評価を受けた。

昨年3月にラボを修了し、帰国準備を進めていた矢先、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大で予

### 家賃も滞在費も

約していた帰国便が何度も運航中止に。ヨバナさんは「どれだけキャンセルされたか覚えていないほど」。昨年4月までだった滞在ビザの延長は出来たが、来日費用はセルビアでのクラウドファンディング(CF)で集めたもので、余裕はなかった。



多治見市陶磁器意匠研究所で制作した作品とヨバナ・チャポロビッチさん。2月7日、岐阜県多治見市新町

## セルビア人陶芸家あす帰国「多治見は第二の故郷」

年4月以降、家賃や水道代を受け取らなかつた。田中さんは「私の孫は海外で世話になった。(多治見に)来ていたたく方を大事にしたいと思って」と話す。

多治見市で知り合った友人たちは、同じく足止めされた別のセルビア人研修生を含めた2人分の滞在費と、作品のセルビアへの輸送費を支援しようと、CFを立ち上げた。知人の河地鉄工(同市垣町)の河地武彦会長(80)は同市諏訪町は会社の敷地の一角を作品の置き場として無償で提供した。帰国後も木箱38箱分の作品はしばらく預かる予定だ。

9日、帰国のあいさつに多治見市役所を訪れたヨバナさんは「多治見のみなさんはやさしく見守ってくれた。手助けがなければ、どうやって生きていけたかわからない。第二の故郷です」と感謝した。

ヨバナさんの友人で、支援するCFを立ち上げたウエブデザイナーの松原正孝さん(48)は「周囲に気配りができる人柄にひかれていた。明るく楽しく頑張っている様子を見て応援したくなった」と話す。

友人の一人で、多治見市産業観光課の久田伸子課長代理(48)は日本文化に触れてもらおうと自宅に招いて特技の書道を教えた。「ヨバナとの出会いはすごく貴重で大事にしたい。やっと帰れるんだ、よかったねとの思いもあるが、すごくさみしい。彼女に会うためにセルビアを訪れたい」と別れを惜しんだ。

(戸村登)

# 陶 説

2019年3月号 | 日本陶磁協会発行

# 3

March, 2019

No.792

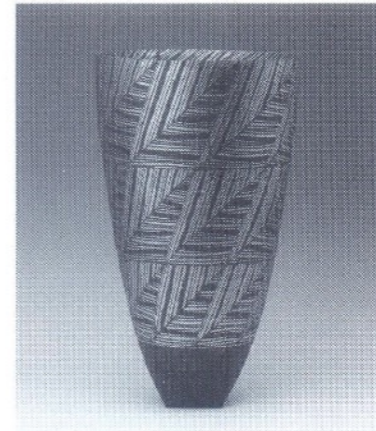
昭和31年3月9日  
平成31年3月11日発行  
(毎月1回1日発行)  
通巻第792号

## 梅澤コレクション特別鑑賞会

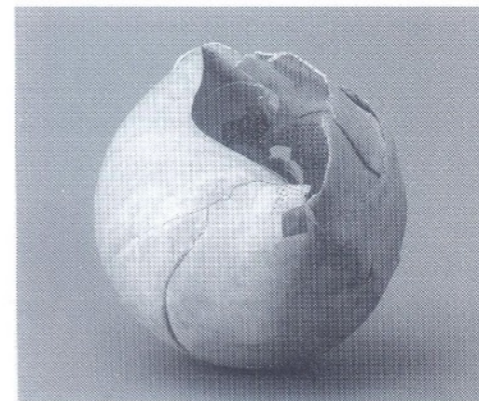
東京国立博物館 東洋館 白磁の誕生と展開



5 北濱芳恵「山雨」



6 朝倉由紀子「線文花器」



7 ヨバナ・チャボロピッチ「Pupa」

もユニークである。

シンリユウ賞(優秀賞)の朝倉由紀子(千葉)の「線文花器」(写真6)は、縦長の器に、三角形を向き合わせたような線文様を三段繰り返し合わせたような描き方に程よいフリーハンド感覚の柔らかさがあり、地色と銀の関係も粹である。

共栄電気炉製作所賞(優秀賞)のヨバナ・チャボロピッチ「Pupa」(写

真7)は、陶片を繋ぎ合わせたような危うさがありつつも、大胆不敵なボリユーム感で観る者を圧倒する。破れや亀裂は日本の桃山陶以来の美意識にもあるが、セルビアのこの作家ならではのスケール感が窺われる。

奨励賞は伊藤栄傑・佐藤典克・豊福博・古井晶子・竹内君則の5人が受賞している。伊藤栄傑(佐渡)の「無名異線紋鉢」(写真8)は鉢の口縁の四方

にアクセントを設け、そのポイントを意識しつつ、底を僅かに立ち上げるなどのフォルムの工夫を試みている。落ち着いた色調に繊細な線紋を施し、無名異の土を用いた新たな世界を切り拓こうとする意思が見出される。

佐藤典克(神奈川県)の「縁鈕」(写真9)は、通常なら中心に据える茶碗の高台を、敢えて極端に片側に寄せた大胆な非対称の形状ながら、安定感も